

活動報告書

報告者氏名：八巻 裕

所属福島県立いわき養護学校

記録日

平成25年2月26日

【対象児（群）の情報】

・学年

小学2年生の男児A

・障がい名

知的障害、情緒障がい（自閉症）

・障がいと困難の内容

A児：文字への関心が強い。手指の器用さに欠け、なぞり書きは大きな直線や曲線ができる。

【活動目的】

・当初のねらい

昨年度から魔法のふでばこプロジェクトの継続で、iPadを本校小学部でも1台お借りしている。昨年度、A児はアプリ「ナゾルート」を好んで行き、タッチペンを持つ（握り持ち）、大まかな線をなぞることができるようになった。そこで、今年度も、iPadを用いてなぞり書きの練習や書字の学習を継続することで、A児の書字動作の向上につながるのではないかと考えた。

・実施機関

課題学習時に、iPadを使用する時間を設定し、他学級、他学年の使用と重ならない範囲で、できるだけ毎日継続して行った。

・実施者

八巻 裕（教諭）

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

対象児は文字への関心が強く、マグネット付きの文字カードを、自分や友達の名前を正しく並びかえることができていた。しかし、なぞりがきになると、直線や大まかな曲線をなぞる程度で、文字を各段階には至っていなかった。鉛筆でも、iPad とタッチペンを使用した際も同様であった。

・活動の具体的内容

アプリ「ナゾルート」、「もじルート」を使用した。活動時間は1日5分。タイマーで終わりを知らせた。

・対象児（群）の事後の変化

「もじルート」で、ほとんどの数字、平仮名、ローマ字をなぞることができるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

課題学習の最後に iPad の学習を行うようにしていたが、iPad の前までの学習が終わると、それまで使用していた物を自分から片付け、タッチペンと滑り止めを持ってまた着席する行動が多く見られた。学習の流れの定着とともに、対象児が iPad の学習を楽しみにしていると感じた。

・エビデンス（具体的数値など）

難易度の設定について、「もじルート」の場合、なぞるべき幅の設定、はみ出すことを許可するかどうかなどが設定できる。使用当初、易しく設定していたものを難しくしていったが、現在では慎重にペンを操作し、はみ出さずになぞることができる。

・その他エピソード

また、机上に iPad を置き、アプリを開く際、はじめは教師が「ナゾルート」、「もじルート」を起動していた。学習が定着すると、自分から画面をスライドさせ、「もじルート」のアイコンを見つけ、起動させられるようになった。また、他のアプリを起動することは好まない。

iPad の画面をペンでなぞるという特性上、本来の書字動作とは異なり、手首や手の腹を画面に付けず、ペン先だけが接触する形になる。文字をなぞる、という動作、ペンを3本の指で持つという動作は定着してきたので、今後、手首をつけての書字動作へ移行していきたい。

